

平成 30 年度

病害虫発生予察情報 第4号 4月月報

北海道病害虫防除所 平成 30 年5月 18 日
http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・少雨（少雪）・多照』月の後半は暖かい空気に覆われ、30日に真夏日を観測－

この期間の天気は、上旬は気圧の谷の影響で雪や雨の降った日が多かった。中旬と下旬は高気圧の張り出しの中となつて晴れた日が多かったが、低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った日もあった。30日は南からの暖かい空気が流れ込んだ影響で、女満別空港の日最高気温が 30.2 度に達し、北海道内で今年初の真夏日となった。気温は中旬は平年より高く、下旬はかなり高く、月平均気温は高かった。降水量は上旬と下旬は平年より少なく、月降水量も少なかった。日照時間は上旬は平年よりかなり少なかったが、中旬と下旬は多く、月間日照時間も多かった。降雪量は上旬は平年より少なく、下旬はかなり少なく、月降雪量は少なかった。

上旬：1日は気圧の谷の影響で日本海側を中心に雨や雪の降った所があったが、オホーツク海側南部などでは晴れた。2日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。3日は寒冷前線が通過して日本海側を中心に雨の降った所が多かった。4日は気圧の谷の影響で雪や雨の降った所があったが、日本海側北部やオホーツク海側北部では晴れた。5日は高気圧の張り出しの中となつて太平洋側を中心に晴れたが、気圧の谷の影響ではじめ雪の降った所があった。6日は気圧の谷の影響で太平洋側を中心に昼前から雪や雨が降った。7日は気圧の谷の影響で全道的に雪や雨が降った。8日は気圧の谷の影響で日本海側やオホーツク海側を中心に雪や雨が降ったが、晴れた所も多かった。9日は気圧の谷が通過して日本海側や太平洋側西部で雪や雨が降ったが、オホーツク海側や太平洋側東部を中心に晴れた所も多かった。10日は気圧の谷の影響により、日本海側ではじめ雪や雨の降った所があったが、その後は高気圧の張り出しの中となつて全道的に晴れた。

中旬：11日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨や雪が降った。12日は気圧の谷の影響で雨や雪の降った所が多かったが、晴れた所も多かった。13日は気圧の谷の影響で、はじめ雪や雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。14日ははじめ高気圧の張り出しの中となつてオホーツク海側や太平洋側東部を中心に晴れたが、次第に気圧の谷が接近して広い範囲で雨や雪が降った。15日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨や雪が降った。16日は低気圧や気圧の谷の影響で雪や雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。17～20日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。

下旬：21日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れたが、気圧の谷の影響で朝晩に雨の降った所があった。22～23日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。24日は気圧の尾根の中となつて日本海側北部やオホーツク海側を中心に晴れたが、気圧の谷の影響で太平洋側西部では雨の降った所もあった。25日は気圧の谷の影響で太平洋側を中心に雨が降ったが、宗谷地方では晴れた。26日は気圧の谷の影響でオホーツク海側と太平洋側東部を中心に雨が降ったが、晴れた所も多かった。27～29日は高気圧の張り出しの中となつて全道的に晴れた。30日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れたが、寒冷前線が通過して日本海側北部では雨の降った所があった。

気象表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照時間	階級
北海道 22 地点平均	+1.1	高	64	少	106	多
日本海側 10 地点平均	+0.9	高	59	少	103	並
林-ツク海側 4 地点平均	+1.7	高	51	少	121	か多
太平洋側 8 地点平均	+1.2	か高	77	並	102	並

(注)階級分布図は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。また、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か低(少)」、「か高(多)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 秋まき小麦

1. 雪腐病 発生量 並

予察ほにおける根雪始めは、芽室町では平年より早く、長沼町では平年よりやや早く、訓子府町では平年並であった。融雪期は、長沼町および訓子府町では平年より早く、芽室町では平年より遅かった。積雪期間は、長沼町、訓子府町では平年よりやや短く、芽室町では長かった。

主力品種「きたほなみ」における雪腐病の発病度は、全ての地点で平年よりやや高かった。病原菌種別で見ると、長沼町では雪腐褐色小粒菌核病、芽室町では紅色雪腐病、訓子府町では雪腐大粒菌核病が主体だった。

一般ほにおける発生面積率、被害面積率はともに平年並であった。ただし、留萌地方では被害面積率が高かった。病原菌種別では、雪腐褐色小粒菌核病の割合が高い地域が多かったものの、オホーツク、十勝地方では紅色雪腐病の割合が高く、空知地方では褐色雪腐病の割合が高かった。

予察ほにおける積雪状況

地点	根雪始		融雪期		積雪期間(日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	12月5日	12月8日	3月26日	4月1日	112	115
芽室町	11月18日	12月6日	4月12日	4月4日	145	121
訓子府町	12月4日	12月6日	3月26日	4月2日	114	118

予察ほにおける雪腐病の発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	25	21	10
	きたほなみ	21	12	8
芽室町	チホクコムギ	45	36	10
	きたほなみ	53	34	9
訓子府町	チホクコムギ	67	36	10
	きたほなみ	42	28	9

予察ほにおける雪腐病の病原菌種別発生割合（単位：％）

地点	長沼町				芽室町				訓子府町			
	チホクコムギ		きたほなみ		チホクコムギ		きたほなみ		チホクコムギ		きたほなみ	
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0	0	0	6	19	0	11	45	24	45	20
雪腐黒色小粒菌核病	0	5	0	4	11	28	25	25	35	48	30	46
雪腐褐色小粒菌核病	100	65	95	62	57	21	10	8	0	2	0	3
紅色雪腐病	0	8	5	18	27	32	65	56	20	26	25	32
褐色雪腐病	0	22	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0

一般ほにおける雪腐病の発生状況（総合振興局・振興局別調査結果）

振興局	作付面積 (ha)	発生面積率 (%)		被害面積率 (%)		発生ほの病原菌種別発生割合 (%)				
		本年	平年	本年	平年	大粒	褐小	黒小	紅色	褐色
空知	14,876	38.9	46.5	7.8	6.2	0	32.8	6.1	5.6	55.6
石狩	5,762	33.2	61.9	5.7	11.6	0	55.0	3.7	34.2	7.0
後志	1,263	49.0	55.3	4.4	2.0	0	79.6	2.1	13.3	5.0
胆振	1,040	2.6	12.4	0	0.7	0	22.6	77.4	0	0
檜山	506	17.8	19.5	0	1.4	0	83.6	8.6	7.8	0
上川	10,603	43.0	68.2	15.7	16.3	0	32.7	22.5	14.4	30.5
留萌	798	74.0	65.2	36.1	14.8	0	84.3	0	1.0	15.2
オホーツク	22,821	18.4	37.5	1.6	4.2	2.1	4.5	14.2	66.4	12.9
十勝	42,389	31.1	18.4	1.2	1.6	8.9	0.7	4.4	85.7	0.3
全道計	100,058	30.9	35.0	4.4	5.0	4.1	18.7	8.6	51.0	17.6

注) 大粒：雪腐大粒菌核病、黒小：雪腐黒色小粒菌核病、褐小：雪腐褐色小粒菌核病、紅色：紅色雪腐病
褐色：褐色雪腐病

2. 赤さび病 発生期 やや早 発生量 並

予察ほにおける「きたほなみ」の初発日は芽室町では平年より早く、長沼町では平年並であった。発生量は各地点とも平年並であった。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率(%)*		平年数
				4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	5月1日	4月30日	0	0.01	8
芽室町	きたほなみ	4月24日	5月10日	0	0.01	9
訓子府町	きたほなみ	未発生	5月20日	0	0	9

注)*：全葉調査の平均値

3. うどんこ病 発生期 早 発生量 並

予察ほにおけるうどんこ病抵抗性“弱”品種「チホクコムギ」の初発日は、芽室町、訓子府町で平年より早く、長沼町では平年より遅かった。発生量は、各地点とも平年並だった。主力品種「きたほなみ」において、芽室町、訓子府町で平年より早く初発を認めた。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率(%)*		平年数
				4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	5月7日	4月29日	0	0.31	10
	きたほなみ	未発生	5月8日	0	0	8
芽室町	チホクコムギ	4月23日	4月29日	0.18	0.09	10
	きたほなみ	4月25日	5月15日	0.05	0.01	9
訓子府町	チホクコムギ	4月24日	5月2日	0.50	0.09	10
	きたほなみ	4月27日	5月8日	0.01	0	9

注)*：全葉調査の平均値

B. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生期 やや早 発生量 並

フェロモントラップによる雄成虫の初誘殺日は、芽室町および訓子府町で平年より早く、長沼町および北斗市では平年並、比布町では遅かった。誘殺数は、北斗市、芽室町、訓子府町で平年並、比布町ではやや多く、長沼町でやや少なかった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月4半旬	1	0.6	8	1.0	10	2.3	1	0.1	1	0
5半旬	0	1.2	14	7.5	10	3.9	2	0.8	0	0.2
6半旬	3	1.6	26	6.0	8	3.8	1	0.7	1	0.6
5月1半旬	0	2.6	73	39.3	8	16.4	2	1.9	2	0.4
2半旬	2	11.2	2	32.0	16	25.8	4	2.4	0	0.6
初誘殺日	4月19日	4月20日	4月19日	4月11日	4月18日	4月18日	4月19日	4月29日	4月18日	5月4日
平年数	10		3		10		10		10	

C. りんご

1. ハダニ類 (リンゴハダニ) 越冬卵量 並

予察園の1短果枝当たり越冬卵数は、長沼町(無防除)で0卵(平年:0卵)、余市町(慣行防除)で0卵(平年:0卵)と平年並であった。

2. ハマキムシ類 (ミダレカクモンハマキ) 発生期 やや早 越冬卵量 やや多

予察園の5年枝3本当たりの越冬卵塊密度は、長沼町(無防除)で0.6卵塊(平年:0.03卵塊)と平年より多かった。余市町A(慣行防除)では0卵塊(平年:0.01卵塊)、余市町B(慣行防除)では0卵塊(平年:0.06卵塊)で卵塊は認められなかった。越冬卵のふ化始は、長沼町では5月1日(平年:5月5日)とやや早かった。